

令和元年6月17日現在

機関番号：22304

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11749

研究課題名(和文) 疼痛管理における外来看護師の役割の構造化と教育的支援

研究課題名(英文) Development of Quality Indicators and educational materials for Nurses to improve Chronic Pain Management Among Older Adults in Out-Patient Clinics in Japan

研究代表者

高井 ゆかり (Yukari, Takai)

群馬県立県民健康科学大学・看護学部・教授

研究者番号：00404921

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、慢性痛のある高齢患者へ向けた外来看護師の役割の構造化及び質指標化、それを実施するために必要な教育プログラムの開発を目的に行った。慢性痛のある高齢患者に対し外来看護師が担うべきとされる役割を調査した結果、25の役割を導き出した。そして、それらの役割それぞれに対応する25の質指標を作成した。外来看護師による25の質指標に対する意見としては、「質指標を参考に実践することは患者に有益であると思う」に対し「とてもそう思う」と回答する外来看護師が多く見られた。その後、外来看護師が質指標で示されているケア内容の実施を支援するための教育プログラムとして、ホームページを作成し公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

変形性関節症や神経痛など数ヶ月以上続く体の痛みに苛まれている高齢者の割合は約80% (古田、高井他、2014)と報告され、外来診療時に高齢患者に関わることの多い看護師による適切な援助が求められている。そこで、慢性痛高齢患者に関わる外来看護師に求められる役割を調査し、その役割をもとに看護師の実践内容を示した質指標を開発した。これらの質指標は看護師によって有益であると評価を得た。結果はインターネット上で公開した。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to develop quality indicators of pain management for older adult with chronic pain based on nurses' roles at the out-patient clinics. We also aimed to develop educational materials for the nurses. We explored opinions of nurses and other health care professionals working at out-patient clinics regarding nurses' roles of chronic pain management for older patients at the our-patient settings. Twenty-five roles were explored, and we developed 25 quality indicators based on them. Next, we examined nurses' perceptions by asking them to either agree or disagree to the indicators. Most participants agreed or strongly agreed with the statement, "it would be beneficial to provide care for patients according to the indicators." Finally, we developed web pages to provide educational materials for the nurses who would be able to practice according to the indicators.

研究分野：高齢者看護

キーワード：外来看護 慢性疼痛 質指標 疼痛管理 役割 多職種連携

## 1. 研究開始当初の背景

体の痛みは、多くの高齢者によって経験され、しばしば悪影響を与え、医療機関へ向かわせる原因となりやすい。腰痛などの体の痛みは、わが国での医療機関受診理由の第1位となっている。変形性関節症や腰部脊柱管狭窄症による痛みや神経痛、がん治療後に続発する慢性疼痛など、数ヶ月以上続く体の痛みに苛まれている人は、人口の45.2%、高齢者の場合は約80% (古田、高井他, 2014)と報告されている。さらに、慢性疼痛は、高齢患者の抑うつ傾向、生活の質低下 (Takai et al, 2015)、リハビリや社会復帰の遅延等の原因となりやすい。

外来でのペインマネジメントには多くの課題がある。米国では体の痛みに対してのオピオイドなど鎮痛薬の長期使用による死亡率の上昇が報告され、わが国でも鎮痛薬の不適切使用や乱用・依存が懸念され始めている。さらにドクターショッピング (慢性疼痛患者の約6割) による医療費の増加も報告されている。慢性疼痛は、急性痛やがん性痛とは異なりその原因が不明な場合が多く、治療期間が長期に渡りやすく、治療以外にもセルフケアへの支援が必要となる。患者がセルフケア能力を獲得するには、外来生活指導やリハビリ、認知行動療法等が必要であるといわれ、それらを効果的に行うための多職種連携実践 (IPW) が重要となる。しかし、患者中心の医療が求められる中で、多職種専門職者 (看護師、医師、理学療法士等) によるサービス提供が行われていても、互いの機能を十分に発揮できていない現状にある。

慢性疼痛の多くは生涯にわたり痛みが継続する可能性があるため、慢性疼痛高齢患者が痛みのみにとらわれて生活を送るのではなく、生活の質、ADLの拡大を目指せるように支援することが求められる。そのためには、疼痛の治癒を目標とした医療の提供ではなく、生活の質の向上を目標とした治療・ケアシステムの提供、多職種連携実践による学際的な疼痛管理や生活指導 (代替療法、認知行動療法などを含む)、患者の参加により、個別性と主体性を重視した治療やケアの提供、専門医による適切な薬物治療が重要となる。その中で看護師は、患者への生活指導や薬剤アドヒアランス向上への支援、多職種間や各種サービスとの調整等、重要な役割を担うとされている (Takai, et al, 2015)。一部の医療機関では外来看護師による電話相談により慢性疼痛患者の不要な入院や受診を防止した等の効果が報告されている。しかし、外来看護師の具体的な役割や実践内容を記述したガイドラインや研究はなく、個々の外来看護師が試行錯誤しながらケアを行っている状況が報告されている (佐藤, 2002)。

外来診療の場では、高齢患者のセルフケア能力獲得に向けた患者教育や医療・介護サービスの適正利用、適切な薬物療法の実施とその管理、リハビリテーション促進等が求められ、看護師は、医療と生活をつなぐ専門職者として重要な役割を担うと言われている。しかし、外来看護師は慢性疼痛患者へのチーム医療に十分に参画しているとはいえないという指摘もある。そのため、外来疼痛管理における看護師の役割を可視化し、看護師と他専門職者がそれを共有することによりチーム医療を推進することは、現在の医療システムにおいての重要な課題であるといえる。そこで、慢性疼痛管理において看護師に求められる役割を質指標という形で提示することによって、外来看護師が「なにをどのように、どの程度、実施することが求められているか」を具体的に知ることができ、自己評価や学習に役立てることができると考えた。質指標のような自己評価を中心とした教育ツールは、忙しい実践者にも取り入れやすい可能性がある。また、質指標を自己評価尺度として用いて調査を行うことにより、看護師の学習ニーズを明確にし基礎教育や継続教育に反映させることができると考え、本取り組みを行った。

### 独創的な点

・腰痛、神経痛など慢性的な痛みを抱え治療を求める高齢患者は多いが、慢性的な痛みはがん性疼痛に比べ「年だからしょうがない」と看過され、慢性疼痛のある高齢患者への看護実践自体が未発達な状態にある。そのため、本研究の成果は、老年看護学における疼痛管理看護学の教育体系の整備に向け、また今後必要とされる専門的な知識を持ち慢性疼痛看護に携わることができるとする看護師の育成に向け、有益な資料となると考える。

・外来看護領域では、その専門性の確立が遅れていることが指摘されている。慢性疼痛などの慢性期疾患が増え、長期的な管理が求められる状況において、外来看護における専門性や役割の確立は急務であるといえる。しかし、外来勤務看護師の外来での勤務理由は、健康状態や家族の都合により夜勤ができないことなどを挙げ、比較的消極的な活動にとどまりやすい状況が示唆されている。本研究では、外来看護という専門性を追求していくために、その一つ分野として慢性疼痛への外来看護の構築を目指す。

### 引用文献

Takai, Y., Yamamoto-Mitani, N., Abe Y. & Suzuki, M. Literature review of pain management for people with chronic pain, *Japan Journal of Nursing Science*, 12 (3): 167-183, 2015.

佐藤幹代, 入院中の慢性疼痛患者の看護介入の検討 患者・看護師・医師への面接を通して, *慢性疼痛*, 21(1):107-122, 2002.

古田良江, 鈴木みずえ, 高井ゆかり, 在宅虚弱高齢者である二次予防事業参加者の疼痛有症率と疼痛の状況が健康関連 QOL に及ぼす影響, *老年看護学*, 18(2): 48-57, 2014.

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、持続的な体の痛みを持つ高齢者のための外来機能の確立、特に、多職種連携実践における看護師の役割の構造化および質指標化、教育プログラムの開発である。そのため、以下を実施する。(1)慢性疼痛のある高齢患者に関わる外来の多職種専門職者を対象に、多職種連携実践の実態と外来看護師に求められる役割・課題に関する聞き取り調査と(2)質問紙調査を行う。(3)前記の(1)と(2)の結果をもとに、多職種連携実践における外来看護師の役割や実践内容を提示した質指標を開発する。(4)外来看護師に質指標の活用を依頼し、その評価を検証する。(5)質指標と関連の自己学習教材をインターネット上で公開する。

## 3. 研究の方法

### (1) 看護師の役割に関する聞き取り調査

【目的】慢性疼痛のある外来高齢患者に関わる専門職者はどのように支援しているのかをインタビューを通して明らかにすることを目的とした。

【方法】高齢者に普段接する事のある専門職(看護師、医師、薬剤師、栄養士、作業療法士、理学療法士、ソーシャルワーカー、介護職者、ケアマネジャー、臨床心理士、等)へ個別に文書を用いて、研究の説明を行い、同意の得られた専門職者3名に慢性疼痛のある高齢者への実践においての役割や課題、問題点について、インタビューを行った。インタビュー内容を逐語録にし、必要な技術と役割について抽出し内容の類似性に則って概念化した。

### (2) 看護師の役割に関する質問紙調査

【目的】この研究の目的は、高齢者の慢性疼痛に関する外来診療における外来看護師の役割とその課題を、看護師を含めた多職種専門職者の意見を基に明らかにすることとした。

【方法】本研究は、質問紙を用いた横断的調査研究である。本研究の対象者は、慢性疼痛への外来診療(ペインクリニック等652施設)に携わっている専門職者(医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、ソーシャルワーカー等)とした。聞き取り調査をもとに構築した外来看護師に求められると考える役割30項目について、「そう思わない(1点)」から「そう思う(4点)」の4件法から一つ選んでもらい回答してもらった。外来看護師の課題について自由記載欄に記入してもらった。

### (3) 質指標の開発

質指標は、前述の聞き取り調査及び質問紙調査の結果挙げられた役割に対応するように作成した。先行研究(山本他, 2008)を参考に「・・・という場合には、・・・を行う(または行うことを検討し、必要かつ可能であれば実施する)」という構造でまとめた。その際、一般的な外来看護師に求められる実践を具体的に示すようにするとともに、現状の平均的な実践内容よりも恣意的にやや質の高い内容を定義することで、学習の必要性や組織へのアプローチ等を意識づけられるようにした。高齢患者に対する実践のみではなく、多職種専門職チームでの活動など組織へのアプローチも質指標内容に盛り込んだ。

### (4) 開発した質指標への看護師の評価

【Aim】 This study aimed to examine the usability of the developed quality indicators of nursing care for chronic pain among older adults at out-patient clinics in Japan.

【Method】 We developed 25 quality indicators based on a previous survey that used self-administered questionnaires to explore opinions of nurses and other health care professionals working at out-patient clinics. The indicators consisted of 5 areas: pain assessment, support for patients' self-care, safety management, and multidisciplinary collaboration. In this study, participants were nurses working at out-patient pain clinics in Japan. We gathered participants' perceptions by asking them to either agree or disagree to the indicators based on their usual practice. To examine the indicators' usability, we asked the participants to what extent they agreed to eight statements by choosing responses from a Likert scale ranging from 1 (strongly disagree) to 4 (strongly agree). An example of the statements is "the indicators cover important nursing practices in the out-patient clinics." They were also asked how often they practiced the indicators (almost always: 4, frequently: 3, occasionally: 2, never: 1). This study was conducted with approval from the Ethics Committee of Gunma Prefectural College of Health Sciences, Japan.

### (5) インターネットによる質指標と教材の公開

質指標の実施が可能となるようにインターネット教材を作成しホームページで公開した。

## 引用文献

山本則子他, 高齢者訪問看護の質指標開発の検討: 全国の訪問看護ステーションで働く看護師

#### 4. 研究成果

##### (1) 看護師の役割に関する聞き取り調査

【結果】外来看護師は、高齢慢性疼痛患者に対し、コミュニケーションの方法を工夫し信頼関係を構築するように努めていた。そのためには痛みの訴えを肯定的に受け止めていた。また、なにげないコミュニケーションを通して患者の性格や家族背景等について情報収集を行っていた。患者の問題や問題となりそうな事柄についてキャッチしたときには、他の専門職と情報共有し連携をとっていた。看護師以外の職種へのインタビューの結果、多職種連携においては、同じ目標に向けた実践を行うことや看護師の役割の重要性が述べられていた。以上のことから、外来看護師においては、患者と信頼関係を構築すること、患者から情報収集を行うこと、多職種連携を行うことが重要であると認識していることが明らかとなった。

##### (2) 看護師の役割に関する質問紙調査

【結果】回答の得られた対象者（485名）の内訳は、看護師259名、医師171名、理学療法士21名、作業療法士8名、薬剤師9名、MSW7名、臨床心理士4名であった。外来看護師の役割として認識する得点（4点満点）の平均値の高い役割は順に「患者とのコミュニケーションを通し、患者に安心感を与える。 $(3.82 \pm 0.41)$ 」<sub>1</sub>、「各種ブロック治療の介助を行う。 $(3.81 \pm 0.42)$ 」<sub>2</sub>、「患者の訴えに傾聴する。 $(3.77 \pm 0.47)$ 」<sub>3</sub>、「患者とのコミュニケーションを通して情報収集を行う。 $(3.76 \pm 0.46)$ 」<sub>4</sub>であった。「認知行動療法を行う。」<sub>5</sub>、「リハビリテーションの介助を行う。」<sub>6</sub>は、平均値が低かった。「患者から得た情報を多職種間で共有する」や「痛みや心理等に関する評価尺度を用いて、患者の状態をアセスメントする。」<sub>7</sub>、「治療や検査についての説明を行う。」<sub>8</sub>は、職種間で有意な差が見られた。課題に関する自由記載欄には、「忙しく余裕がない」や「専任でない」<sub>9</sub>、「知識不足」などの回答が見られた。

【考察】患者とのコミュニケーションを通じた関わりが、外来看護師に必要な役割であると認識されていることが明らかとなった。このような期待に応えることができる技術の習得支援や体制づくりが重要である。

##### (3) 質指標の開発

前述(1)から(2)の研究で、看護師を含めた多職種専門職者が、外来看護師が担うべきと認識した25つの役割が明らかとなった。これらの役割それぞれに対応すると考える25の質指標を作成した。質指標とは、高齢者の慢性疼痛診療において、外来看護師として、これは実践すべきと考えるケアの具体的な内容を示す指標である。この指標により、高齢者の慢性疼痛への外来看護において、外来看護師に一般的に何がどのようになされるべきか、その標準的な実践を示す指標を提示することができる。これにより、慢性疼痛のある高齢者に対する外来看護の質を可能な範囲で標準化・レベルアップするとともに、指標内容の実践が難しい場合は、その対策や教育的支援を検討することが可能となる。作成した質指標は、「コミュニケーション・情報収集・アセスメント」<sub>1</sub>、「生活支援」<sub>2</sub>、「安全管理」<sub>3</sub>、「診療の補助」<sub>4</sub>、「多職種連携」<sub>5</sub>の5つの分野からなる。

##### (4) 開発した質指標への看護師の評価

【Results】193 questionnaires were returned to the researchers. Mean age was 45.7 (SD 10.2) years. The mean duration of experience at the clinics was 6.2 (SD 6.1) years. A total of 122 participants (63.7%) worked fulltime. Nineteen indicators were agreed to by more than half of the participants. The 6 indicators related to multidisciplinary collaboration and pain assessment using the pain intensity scale were not agreed to by majority of participants. Just 168 participants (87.5%) agreed or strongly agreed with the statement, “the indicators cover important nursing practices in the out-patient clinics;” and 188 (98.4%) of them agreed or strongly agreed with the statement, “it would be beneficial to provide care for patients according to the indicators.” The most frequently performed practices among the indicators were “preparing and checking items necessary for medical treatment and providing an appropriate environment for patients.” Practices related to multidisciplinary collaborations were not frequently performed by the participants.

【Conclusions】The developed quality indicators could represent the first attempt to improve the quality of nursing care for patients with chronic pain at out-patient clinics. The nurses working at out-patient clinics agreed with most of the developed quality indicators. The indicators related to multidisciplinary collaborations were not agreed to or performed, by the nurses. The reasons could be because of the busy work environment at the clinics and lack of health care professionals there. Development of multidisciplinary pain teams could be beneficial for patients with chronic pain.

Table 1 Participating nurses' opinions on the developed quality indicators (n = 193)

|   |   | Mean | SD  |
|---|---|------|-----|
| 1 | I think that the indicators should be beneficial if we practiced according to the indicators. | 3.5  | 0.5 |
| 2 | The indicators cover important nursing practices in outpatient clinics.                       | 3.2  | 0.7 |
| 3 | I think that I could do them if I had appropriate educational support.                        | 3.1  | 0.7 |
| 4 | I cannot do them because I am busy.   | 2.7  | 0.8 |
| 5 | It is difficult to do them because I do not have enough knowledge and experience.             | 2.6  | 0.7 |
| 6 | The indicators seem to be not realistic for an outpatient setting.                            | 2.2  | 0.8 |

1 (strongly disagree), 2 (disagree), 3 (disagree), 4 (strongly agree)

#### (5) インターネットによる質指標と教材の公開

ウェブサイトを作成し公開した。本研究の目的や結果等を一般向けに編成し提示している。

#### 5. 主な発表論文等

##### 〔雑誌論文〕(計3件)

- 1) Takai, Y., Yamamoto-Mitani, N. & Chiba I. The process of motivating oneself to resist being controlled by chronic pain: A qualitative study of Japanese older people living in the community, *Pain Management Nursing*, 18(1):42-49, 2017. DOI: 10.1016/j.pmn.2016.10.004
- 2) 高井ゆかり, 特集 慢性疼痛に対する多様なアプローチ 多様なアプローチから患者の未来を考える : 慢性疼痛のある高齢者への看護, 保健の科学, 60(11), 745-749, 2018.
- 3) 高井ゆかり, 高齢者の痛み評価のポイント, 臨床麻酔, 40(3), 463-467, 2016

##### 〔学会発表〕(計4件)

- 1) Takai, Y., Abe, Y. & Sakai, S.: Improving Chronic Pain Management Among Older Adults in Out-Patient Clinics in Japan: Development of Quality Indicators for Nurses, 17th World Congress on Pain (International Association for the Study of Pain: IASP), Boston, MA, USA 2018年9月
- 2) 高井ゆかり: 介護施設入所中の認知症高齢者の痛みの実際とアセスメント尺度の紹介, シンポジウム「認知症高齢者の痛みの評価と治療方針の決定」第23回日本緩和医療学会学術集会, 神戸, 2018年6月
- 3) 高井ゆかり: 高齢者の慢性痛診療における外来看護師の役割と課題、第47回日本慢性疼痛学会, 大阪、2018年2月

##### 〔図書〕(計3件)

- 1) 鈴木みずえ, 高井ゆかり編集, 認知症の人の「痛み」をケアする 「痛み」が引き起こすBPSD・せん妄の予防, 日本看護協会出版会, 東京, 2018. (2018/6/20出版) ISBN-10: 4818021229 ISBN-13: 978-4818021228
- 2) 高井ゆかり, 住谷昌彦, 高齢者の痛み, in 日本疼痛学会痛みの教育コアカリキュラム編集委員会編集, 痛みの集学的診療: 痛みの教育コアカリキュラム, 真興交易(株)医書出版部, 2016. なし
- 3) 高井ゆかり, 認知行動療法を取り入れたグループ療法「慢性痛みハビリ」の実際, in 伊豫雅臣, 齋藤繁, 清水栄司, 慢性疼痛の認知行動療法: “消えない痛み”へのアプローチ, 日本医事新報社, 2016

##### 〔産業財産権〕

出願状況 なし  
取得状況 なし

〔その他〕

ホームページ等

- 1) [高井ゆかり](#)，2013～2015年生涯学習支援研究による老年看護技術のサブテキスト 高齢者の痛みのアセスメントとケア，日本老年看護学，老年看護学会，(2018, 8, 20)  
[http://184.73.227.65/t\\_rounenkango/portal/reports.aspx](http://184.73.227.65/t_rounenkango/portal/reports.aspx) (学会員限定)
- 2) [高井ゆかり](#)，[阿部吉樹](#)，[坂井志麻](#)：慢性痛ケアを見直そう！痛みの看護.net  
<http://pain-nursing.net/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名： 阿部 吉樹

ローマ字氏名： ABE, Yoshiki

所属研究機関名： 筑波大学

部局名： 医学医療系

職名： 助教

研究者番号(8桁)： 30630785

研究分担者氏名： 坂井 志麻

ローマ字氏名： SAKAI, Shima

所属研究機関名： 杏林大学

部局名： 保健学部看護学科

職名： 教授

研究者番号(8桁)： 40439831

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。